

黒龍江省との交流を 通じて学んだこと

写真・文 篠田 邦彦
Kunihiko Shinoda



7月16日に瀋陽で開催された「2015年中日経済協力会議」で農業協力についてプレゼンする日系商社関係者



6月16日に北京で開催された「2015 黒龍江省—日本ビジネス交流会」で講演を行う陸昊省長

子子ハル市の自然公園、広大な湿地帯に多くの丹頂鶴が生息し、エコツーリズムの基地に

中国では面積で世界第三位の広大な国土に数多くの省、自治区、直轄市が存在する。本稿では、そのなかでも最も北に位置する黒龍江省との交流について紹介したい。中国では、地域ごとに異なる社会・経済的な特性に応じた発展モデルがあり、また、共産党の指導者たちも、地方の人民政府での勤務を経験したうえで、中央でさらにキャリアアップする。こうした背景から中央政府だけでなく、地方政府との交流も中国での大事な仕事のひとつであり、具体例も交えながら触れていくこととしたい。

● 黒龍江省・日本ビジネス交流会

六月一六日、北京で黒龍江省・日本ビジネス交流会が開催された。これは黒龍江省の陸昊省長自らの発案で、黒龍江省に日系企業の投資を呼び込み、日系企業と地場企業とのビジネス交流を深めるために開催されたものである。陸昊省長は三五歳の若さで北京副市長に抜擢され、四一歳で共青团第一書記、二〇一三年に四六歳で黒龍江省省長に就任した。中国では将来の指導者候補に若い時に、比較的経済発展の遅れた地方の行政を経験させることが多い。全国最年少で省長に就任した陸昊省長は、中国の現政権の次の次の世代の指導者の有力候補と言われている。

こうした背景もあり、会場となった北京の長富宮飯店に約二〇〇人の日本大使館・日系企業等の関係者と約一五〇人の黒龍江省・地方都市の人民政府および地場企業の関係者が集まる一大イベントとなった。

まず、冒頭、黒龍江省の魅力を伝えるビデオが一五分ほど流され、広大な緑と湖に囲まれた黒龍江省の景色が映された。映像のなかで、地元の官民関係者や海外の投資家が黒龍江省の様々な魅力を語っていた。ビデオの内容をみると、仮に黒龍江省への投資をすぐに行うことは難しくても観光旅行に行ってみたいと思わせるものであった。



ハルビン市の松花江に面した太陽島公園では、湿地地帯に丹頂鶴が生息し、市民の憩いの場に



ハルビン市の松北創新区では、中国の大手デベロッパー万達集団により巨大な人工スキー場の建設が進む



夜 21 時を回っても、ハルビン市の中央大通りでは買い物に繰り出す市民で賑わっていた



7月17日にハルビン市で中国日本商会を代表して黒龍江省の陸昊省長と会見（左が筆者）

次に陸昊省長が事前に原稿も用意せず、自らの言葉で黒龍江省の経済や社会の現状および今後の方向性について五〇分ほどにわたる講演を行った。特に中国の北方に位置する黒龍江省として、農業、食品加工、資源・エネルギー、ハイエンド製造業、観光シルバー産業等の産業振興に焦点を当てて経済発展の実現を目指している点、また、北京にいる日系企業が黒龍江省を実際にみて、その魅力に触れてほしい点などを強調していた。

その後行われた黒龍江省と日系企業の商談会では、省内の各都市、各企業の多くのブースで熱心な勧誘活動が行われた。各地方政府の副市长・局長クラスの幹部からは、是非とも自分の市や町に来てほしいとの熱烈なラブコールが出された。

最後に懇親昼食会が開催され、日中双方で三〇〇人余りが参加するなか、各テーブルで黒龍江省の地元名物のブルーベリー酒が振る舞われ、日中関係者の間でお互いを紹介するなど交流を深めることができた。

● 黒龍江省視察ミッション

今年六月の黒龍江省・日本ビジネス交流会での陸昊省長の要請を受けて、北京の中国日本商会では、その一カ月後の七月一五〜一九日に商社、エネルギー関連会社、メーカー、銀行等の関係者約二〇名からなる視察ミッションを派遣することになった。前半の一五日、一六日には瀋陽で開催された日中経済協力会議（日中東北開発協会、日中経済協会が主催）に参加して、東北三省（遼寧、吉林、黒龍江）・内モンゴル自治区関係者と交流を図り、後半の一七〜一九日は、黒龍江省のハルビン、チチハル、大慶の各市を訪問し、省・市政府や地場企業との交流を進めた。今回の視察ミッションを通じて得られた所感



チチハル市の食品加工会社、低農薬の米、とうもろこし、穀物を加工したグリーン健康食品を市場に売り込む



チチハル市郊外の農村文化産業モデルプロジェクト、都市住民の農村体験やシルバー層の定住を目指す



ハルビン市の松花江の北では、新たな経済開発区である松北創新区の開発構想が実現に移されつつある



ハルビンからチチハルに移動する特急列車、2015年8月からは高速鉄道が開通し、所要時間は3時間から1時間半に短縮



ハルビン美術館では、ロシア画家の展覧会を開催するなど、ロシアとの文化交流に力を入れる

は以下のとおりである。

(1) 地方の発展はトップのリーダーシップ次第

昨年から今年にかけての二度の日中首脳会談、今年五月の二階議員ミッシェン等を通じて日中関係が改善に向かうなか、その機を逃さず陸昊省長自らが陣頭指揮をとって、日系企業とのビジネス交流会を北京で開催し、中国日本商会の黒龍江省視察ミッションの訪問先なども自ら指示するなど、リーダーシップは卓越したものである。中国日本商会視察ミッションとの会見では、当初三分の予定を一時間に延長し、黒龍江省の産業高度化のビジョンや汚職取締り強化に向けた決意を自らの言葉で語り続け、ミッション参加者は非常に感銘を受けていた。実際に今回の一連の行事を通じて、日系企業の個社ベースでの黒龍江省との交流も増えている。

(2) 東北地域は産業構造転換の課題に直面

陸昊省長との会見では、もともと国営の石油産業重工業、農業関連の国有企業が多い黒龍江省において、中国政府が推進するインターネットプラス政策等を通じて、農業・食品加工、観光、物流、医療・介護、教育等の産業の高度化を図り、より高い付加価値を生み出していきたいとの説明があった。今回のミッションにおいても、地場や外資のハイテク企業が立地するハルビン市の松北創新区やチチハル市の健康を重視したグリーン食品加工企業等を視察する機会に恵まれた。日系企業においても、今後、特に農業・食品加工等の分野でビジネス交流を拡大する機会があるとの印象を持った。

(3) 中間層の台頭にもない、消費市場は拡大

黒龍江省はハルビン市一〇〇〇万人、チチハル市



「石油の町」大慶市では到るところに原油の掘削リグが設置されるが、近年は減産傾向にある



大慶市の郊外に新たに建設された温泉付大型リゾートホテル、大慶市は中国4大温泉観光地のひとつ



大慶市では、石油産業、温泉リゾートと並んで湿地観光も大きな魅力のひとつ



7月19日の大慶市と商談会では、日系企業の誘致に向けて于副市長や幹部から熱心な働きかけがあった

五七〇万人、大慶市二六〇万人と都市レベルでは人口規模も大きく、経済発展にともない消費者の購買力が拡大しつつあることを実感した。ハルビン市の中央通りでは、夜二時を過ぎても食事やショッピングを楽しむ市民で溢れかえっていた。また、松北創新区では今後のレジャー人口の増加を見据えて、巨大な人工スキー場を中核とするレジャー商業施設が建設されており、バブル時代の日本に戻ったような印象であった。

(4) 恵まれた自然環境が観光産業の起爆剤に

黒龍江省は中国北部に位置し緯度が高いため、広大な湿原地帯が広がっている。各都市で湿地を活用した野生の丹頂鶴の観察などエコツーリズムが盛んになりつつある。また、大慶市は中国の四大温泉地のひとつであり、温泉プール付巨大リゾートホテルが新設され、欧州からの観光客も誘致している。チチハル市では農業文化を体験する農村文化産業モデルプロジェクトが進められ、都市の家族層が農村体験を楽しんだり、シルバー層が定年後に移住することを目指していた。

(5) 周辺地域（ロシア、モンゴル等）との交流も拡大

黒龍江省はロシアと国境を接しており、また、中国からモンゴルを経由してロシアに向かう国際列車の起点となっている。今年八月には瀋陽からハルビンまで開通していた高速鉄道がチチハルまで延長され、こうした動きを加速している。ハルビン市の宋市長との会見では、ハルビン市としてロシアとの国際物流の結節点を目指すとの発言があるなど、国境貿易に今後とも力を入れていく様子であった。

しのだ くにこ

アジア経済研究所海外研究員
日中経済協会北京事務所長